



強く正しく明るく

校訓「強く 正しく 明るく」 教育目標「ふるさとを愛し、夢の実現に向かって考動する児童の育成」
目指す児童像「強い子 正しい子 明るい子」

ふるさと山鹿の魅力を満喫～6年歴史探検～

チブサン古墳・オブサン古墳、山鹿市立博物館などを見学した6年生。本物の迫力に触れながら、山鹿がいかに歴史ある魅力溢れるふるさとであるかを学びました。また、山鹿市立博物館の学芸員さんに、土器についても詳しく解説していただきました。



6年生はこれまでの学習の中で、山鹿市教育委員会文化課の山口さんから、八幡っ子が暮らすこの八幡小校区には、1万年以上前から人が住み、30以上もの古墳があることを教えていただき、脈々と続く人々の営みに大変驚いていました。八幡小創立150年目の今年。子どもたちは、ふるさと八幡の素晴らしさを再発見しています。

城北高生が今年も水泳サポート！

今年も城北高校普通科スポーツ科学コースの1～3年生に水泳指導の補助を複数回お願いしました。授業の様子は6月24日付け熊日新聞にも紹介されました(写真右)。コロナ禍で水泳の授業が数年間もできない時期を過ごした子ども達。「命を守ること」に繋がる水泳学習。水に慣れ、水泳の楽しさを感じてほしいと思います。



2年生校区探検

～地域の方々とのふれあいを通して学ぶ～

生活科の学習で、郵便局や商店などを訪れ、地域の方々にインタビューした2年生。多くの発見や気づきを生き生きと話してくれました。帰校してから、学んだことを表現力豊かに絵と文でまとめ上げていました。



きらり！八幡っ子！

☆職員室掃除、校長室掃除担当の6年生。どの子も掃除開始チャイムの数分前には来て、手際よくてきぱきと掃除を始める姿に感心しています。もちろん無言掃除です。さすが八幡小の最上級生ですね。校長室は井芹ゆうなさんが担当ですが、ほうき・ちり取り・雑巾・バケツの4点セットをまとめて持ち込み、隅々まで丁寧に拭き上げてくれています。掃除終了後の笑顔いっぱいのおいさつも爽やか！よいお手本です。

水難事故から命を守る

今年、ラニーニャ現象などの影響で厳しい夏になりそうです。

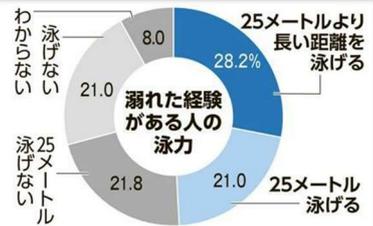
海や川などでの水難事故の犠牲者は、年間700人以上。「海のそなえプロジェクト」

を立ち上げた日本財団による15～70歳の男女1万人以上を対象とした全国規模の調査結果によると、5人に1人が海や川などで「自力で陸や地上に戻れない」といった溺れた経験があるとのこと。ところが溺れた経験のある人の約半数は実際には25m以上泳ぐことができたそうです。ふだん泳げる人も突然、波を被ったり、深みにはまったり、沖に流されたりするとパニックになり、冷静な判断ができず溺れてしまうことがあるとのこと。海や川などの自然水域では、持っている泳力を十分に活かすことが難しいんですね。

少し状況は異なりますが、私も大学生の頃、ウィンドサーフィンをしていて潮に流され、ずいぶん沖合に出てしまいました。艇より大きな魚影を眼下に見たときには、一瞬思考がフリーズし、パドリングができなくなった記憶があります。

「海や川には子どもだけで行かない」「疲れた時、体調が優れない時、睡眠不足の時などには、無理をして泳がない」などが鉄則です。また、先日のように、大雨警報、雷・強風・洪水注意報が出されることもあります。「増水した川や用水路を見に行ったり近づいたり絶対にはしないこと」をご家庭でもお子さんにしっかり話し込んでください。

また、安心メールでもお知らせしますが、夏山登山の際には、服装や携行品など十分な備えをお願いします。



1年生道德の授業～「親切」について考える

一昨日、道德の授業で「はしのうえのおおかみ」を学習した1年生。教材を通して「親切」について考えを深めていきました。担任の福山先生が、「親切」について子どもたちに話るとき、あるエピソードを想起させられました。それは昼休み終了後すぐのこと。運動場に置き忘れてあった1年生の水筒を汗だくで届けてくれた4年生の有馬まさきさんの姿でした。そこから、「親切」にされて嬉しかったことや、誰かに親切にしたときの自分の気持ちをあたためながら学習が進んでいきました。